ITO YOUTH SCHOLARSHIP FOUNDATION

伊藤青少年育成奨学会 奨学会だより

Vol. 18
2014.4.1
年２回発行
（4月・10月）

CONTENTS

■平成 25 年度スポーツ振興支援事業報告書
■平成 25 年度地域振興事業報告書
■奨学生の声紹介
■平成 26 年度スポーツ振興支援事業並びに地域振興事業募集中

シリーズ　第18回
この本をあなたにも薦めたい
言志四録　佐藤一斎（著）

“奨学会だより”でつなぐ夢の架け橋

伊藤青少年育成奨学会と、奨学生のみなさん、県下の高等学校の運動部並びに文化系部活動のみなさん、そしてこれから奨学金を受けたいと希望しているみなさんをつなぐ架け橋として「奨学会だより」を発行しております。わたしたち奨学会は、郷土・岐阜の未来を切り拓く青少年のみなさんが、その夢を実現することができるようにと、平成１２年から資金援助を行っています。

しかし、みなさんが目標にしている“夢”は容易に手に入るものではありません。実現までの道のりは長く、厳しく、途中幾度となく諦めを感じることも少なくないと思います。

そんなときに、どこか遠くで頑張っているほかの奨学生の様子を目にすることができれば、きっとみなさんの励みになるのではないでしょうか。

また、わたしたちの活動をまだ知らない方々もたくさんいらっしゃるはずです。経済的理由から将来に不安を持ち、夢を諦めようとしている仲間達もいるかもしれません。

そんな方々に、みなさんの頑張っている声を聞いていただきたい――「奨学会だより」の発行にはそんな願いも託されています。

スポーツ振興支援

平成 25 年度スポーツ振興支援校からの報告書の一部です。

岐阜県立岐阜北高等学校　剣道部　カーボン竹刀を手に県大会で男子団体が準優勝！強固な心で全国大会出場を目指す！

この度は、伊藤青少年育成奨学会スポーツ振興支援事業の対象に本校剣道部を選定していただき、誠にありがとうございました。

交付式の直後に、一日でも早くカーボン竹刀とその収納台（竹刀立台）を使用したいとの思いから発注をしました。品物が届いた翌週に第 41 回岐阜県高等学校剣道大会（期日：8 月 14 日　場所：関市総合体育館）が開催され、本校は男子団体で準優勝することが出来ました。貴会からカーボン竹刀・収納台と同時に勝利の女神も送り届けて頂いたような思いがいたしました。感謝と感激で一杯でした。

支援していただいたカーボン竹刀は、破損の恐れはほとんどありません。（剣道の重大な事故は、竹刀の破損によるものです。）併せて、長期間使用することが出来ます。この特徴から、安全・安心な活動が保障され、内容の濃い活動を思いっきり行うことが出来ます。また、竹刀購入費は個人負担であり、その経済的負担は保護者にとってかなりなものになります。この様な状況から、保護者の方々からも感謝の声が多く届けられています。

本校剣道部の活動は、勉学と部活動を両立しながら、全国大会の出場を目標としています。努力を積み重ねても目標を達成できるとは限りません。しかし、求める（必要とする）者しか見えないもの・聞こえないもの・気が付かないこと等を大切にしながら活動しています。この様な考えのもと、勉学・部活動の目標は常に高い所に設定しています。目標が決定すれば自ずからその過程は確定されます。その道程を毎日必死に進んで行こうと考えています。

ただ、勝敗にこだわるだけでなく、剣道の楽しさ・おもしろさを体感できるよう基礎・基本を大切にし、その延長線上に全国大会出場を思い描いています。

部員達は、各自の課題解決のために毎日真剣に取り組んでいます。成長著しい高校期にいろいろな実体験をすることにより大きく成長し、将来、社会にとって有用な人材になってくれることを確信しております。

最後になりましたが、貴会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げ、お礼と報告とさせていただきます。

顧問　久世光憲

岐阜県立池田高等学校　硬式野球部　最新式のピッチングマシンを導入。新しい池高チームで地域の期待に応えたい。

この度は伊藤青少年育成奨学会スポーツ振興支援事業の支給対象校としていただき、心から感謝しております。おかげさまで長い間欲しかった最新式のピッチングマシンを購入させていただくことができました。

私たち池田高等学校硬式野球部は、毎日放課後３時間程練習し、土日は相手校を迎えて練習試合を行ったり、遠征に出たりと、ほとんど休みなく練習をしています。しかし自分たちが地域の方々の支援や応援の気持ちに支えられて、こうして部活動ができていることは決して忘れず、毎週月曜日には、校舎内だけでなく、校舎の外である地域の清掃活動も行っております。これも野球部の大切な活動だと選手たち全員が自主的に始めたことでした。

さて、本校にはかなり古い型のピッチングマシンが一台ありましたが、故障が多く、直す度にたいへんお金がかかり、十分に機能しないままの状態でした。「新しいピッチングマシンを購入したい！」と願っても、部活動の部費だけでは中々厳しいものがあり、現状での購入は夢のまた夢、と半ば諦めていました。そのような中、今回伊藤青少年育成奨学会スポーツ振興支援事業の支給対象に選ばれ、最新式のピッチングマシンを購入することができると聞いたときは、耳を疑いましたが、選手全員からは大きな歓声が上がりました。

今回の支援で購入させていただいたピッチングマシンは、従来のものと比較して、まずセットアップが非常に簡単でした。またマシンの機能も、右・左投げ、ストレート、変化球と多彩な球種を細かく使い分けることができ、その調整も簡単でした。さらに球速も従来のものよりも、はるかに上がり、今まで本校の選手の弱点であった、速球型ピッチャーへの打撃練習にもたいへん役だっています。また安定した制球で繰り返し同じ球を投球してくれるので、バッティングだけでなく、選手たちが苦手なバント練習も安心して行うことができるようになりました。さらに、とても正確なボールを投球してくれるので、今までできなかった、さまざまな打球の捕球の型を取得する練習も行えるようになりました。

このようにピッチングマシンの導入により今までに比べ、たいへん多彩な練習ができるようになりました。これによって本校野球部の最大の弱点である打撃力を向上させ、これからは新チームで、８月に行われる県大会西濃地区予選に臨み、２年ぶりの県大会出場を目指して、より一層練習に励んで行きたいと思います。

また試合に勝つことだけを考えるのではなく、前述したような地域に支えられている、地域に愛される池高野球部をつくるために、従来の清掃活動だけでなく、地域に貢献できることを常に考えて野球部としての活動を続けたいと思います。

最後になりますが、伊藤青少年育成奨学会の温かいご支援に対しまして、野球部のみならず池田高校一同、心よりお礼を申し上げます。今後とも、池田高校をよろしくお願い致します。

顧問　河合徹

岐阜県立加茂高等学校　ボート部　新艇購入で練習が効率化。全国選抜・インターハイ・国体の三冠を達成！！

拝啓、秋冷の頃、貴会には益々御繁栄のこととおよろこび申し上げます。

この度は、スポーツ振興支援事業において加茂高校ボート部に対し多額の御支援をいただき厚くお礼申し上げます。また、贈呈式にはすばらしい会場で、いろいろお心遣いをしていただいたこと、あらためて深く感謝いたしております。今回の援助金で、予定どおり艇（ダブルスカル）を購入させていただきました。先日、念願の艇が届きましたのでご報告させていただきます。

加茂高ボート部は本校のモットーである「文武両道」のもと、学業と部活動の両立を目指し日々活動に励んでおります。部員が 60 名を越えておりますが、ほとんど未経験者です。その中でも高校３年間で成果を出し続けられるのも、関係者の皆様からの御支援のお陰と思っております。こうして艇を購入させていただき、日々の練習が充実していくことはもちろん、練習場所における地域の方々の御理解があってこそだと改めて感じております。

今回艇が購入できましたことで、艇の老朽化や部員数の増加で効率的な練習ができていなかったことから解消され、より集中して練習できる環境が整ってきました。よりレベルの高いところを目指していきたいと思います。今シーズンの結果は女子が全国選抜大会優勝・インターハイ優勝・国体優勝と全国大会の３冠に輝きました。また、男子もインターハイにおいて３位に入賞いたしました。これに満足せず、今まで以上に部活動の強化に努めて参りたいと思います。さらには、艇を大切にする心（物を大切にする心）を養い感謝の気持ちがもてる人づくりをしていきたいと考えております。また、地域に少しでも貢献できるような集団であること、そのような人材育成を心掛けたいと思います。

本来なら直接御挨拶に伺わなければならないところ、書面にて失礼させていただきます。

貴会の益々のご発展と皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

敬具

顧問　古田丈博

地域振興支援

平成 25 年度文化系部活動支援校からの報告書の一部です。

岐阜高校　書道部

まあたらしい筆で、のびやかに書道パフォーマンス！今後も発表の場を拡げたい。

拝啓　清秋の候、貴会いよいよご繁栄のこととお喜び申し上げます。

この度は伊藤青少年育成奨学会「地域振興支援事業」の対象校として本校書道部に支援していただき、誠にありがとうございました。

本校は今年創立 140 周年を迎え、「百折不撓」「自彊不息」の校訓のもと、生徒は文武両道をめざし、ますます学習と部活動に励んでいます。

本校書道部は年々部員数が増え、本年度は三年生を含め 45 名という大所帯となりました。普段の練習は、部員全員が集まると書道室に入りきれず、廊下も使って練習しています。また、部員数の増加のため、墨や紙の消費量も増え、あっという間になくなる次第です。

また、本校書道部は平成 21 年度より文化祭において書道パフォーマンスを行っており、年々好評を得て大勢の生徒や保護者の方に見ていただいています。あいにく今年の文化祭は雨で、狭いエントランスで行うという最悪な状況であったにもかかわらず、多くの方に見に来ていただき、有難く思いました。書道パフォーマンスの作品は 4 × 6 mの大きな紙に書く曲選びや、構成、衣装などすべて自分たちで考えます。一年生から三年生まで一つになり、一つの作品を仕上げていくという書作品のあり方は今までになかった形です。他の部員と息を合わせ、自分の分担を確実にこなさないと、他の部員に影響を与え、まとまった作品になりません。たとえば、自分の分担の部分の字が大きすぎて次の部員の書くスペースがなくなってしまうこともあり得ます。そんな場合も次の部員は臨機応変に対応しなくてはなりません。お互いを思いやりながら何度も練習をして、作品を発表したあとの感動で涙する生徒の姿はすがすがしいものがあります。

そんな中、書道パフォーマンスに必要な特大筆が痛んでしまい、高価なためなかなか学校では買う予算がなく、困っていました。そこで昨年は顧問の筆を使って行いました。今回の支援金により、特大筆や、様々な筆を買うことができ、今年は新しい筆で心おきなく表現できました。これはひとえに理事長の伊藤喜美さまをはじめ、伊藤青少年育成奨学会の皆様のおかげと心より感謝しております。

今年度は外部にも発表する機会を持ちたいと思い、去る 10 月 6 日の、信長祭り協賛のパフォーマンス大会に二年生の部員が参加しました。前期期末考査が直前にあり、一週間という短い練習期間でしたが、集中して練習に励み、部員は筋肉痛になるくらいまで練習しました。おかげで度胸もつき、外部に発表する喜びも味わうことができました。また、他校のパフォーマンスを見て刺激を受け、来年も頑張ろうという意欲が出てきたようです。今後も、外部に発表できる機会を多く取れるよう頑張りたいと思います。そして、支えていただいている多くの方々に感謝しながら、さらに心のこもった作品が発表できるよう精進したいと思っています。

最後になりましたが、あらためてこの度の温かいご支援に対しまして、顧問ならびに部員一同心よりお礼を申し上げるとともに、今後ともご支援賜りますようよろしくお願いします。

顧問　毛利慶子

関高校　吹奏楽部

「響音響心」…澄んだ音色に感謝の心を込め、地域に愛される吹奏楽部へ

初秋の候、貴財団におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたびは、本校吹奏楽部に多額のご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。今回購入させていただいたのは、チャイムとオーボエで、どちらも高額なため購入することができず、他校などから拝借していた楽器です。キラキラと光輝くチャイムが届いた時には、部員達は喜びに満ち溢れた表情で楽器を見つめていました。叩いてみると、今まで使っていた、錆びたチャイムとは比べられない程の、透き通った音色がして、『こんなきれいな音が出る楽器だったんだ・・・。』と大変感激しておりました。今年の夏のコンクールでは、ジャンヌ・ダルクを題材にした作品を演奏しましたが、穏やかな情景や、戦いの始まる合図、祈りの鐘の音などをチャイムで表現して、コンクール会場に透き通った音色を響き渡らせることができました。結果は残念ながら銀賞で、大変悔しい思いをしましたが、部員の団結力は例年以上のものを感じましたし、表現力や音色などは昨年度よりも確実に成長していることが感じられた演奏でした。

オーボエは、大変高価で、個人で購入することが難しい楽器の一つです。3 年生が引退するまでは下級生が使用できないため、これまでは、他校や楽器店などからお借りしていました。このたびのご支援により、オーボエを購入することができたので、一年生でありながらも、堂々としたオーボエの音色を響かせて演奏することができ、十分な成長ぶりが窺えました。オーボエは木管楽器の中でも、特に繊細な楽器です。購入させていただいた楽器は、いつまでも美しい音色が奏でられるよう、毎日丁寧に手入れをして大切に使わせていただいております。

9 月 15 日には、地域の敬老会において、演奏をさせていただくことになり、120 名ほどのお年寄りの皆さんに、懐かしい童謡や歌謡曲を聴いていただきます。来月には、市内の公民館が主催する秋祭りのオープニングで、演奏させていただく予定です。また、市内の中学校からも、演奏のご依頼をいただくことができ、地域の皆様に愛される吹奏楽部でありたい、という思いを実現できる場を与えていただけることに、感謝しております。

今後も、常に純粋な気持ちで吹奏楽と向き合い、『響音響心』を部訓に、あいさつ、礼儀を重んじ、私たちの演奏を聴いてくださる方々に感動を与えられるよう、精一杯の活動をしていきたいと思います。この度は、本当にありがとうございました。

顧問　飯田香苗

飛騨高山高校　太鼓部

念願の新和太鼓で、感謝と挑戦心溢れるダイナミックな演奏を！

この度は、伊藤青少年育成奨学会様による多大なるご支援をいただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。

本校太鼓部は、昭和 52 年にその前身である民謡研究部が発足した後、途中和太鼓を取り入れ 36 年間活動をしております。農業の盛んな飛騨地域において、「農」を核とした地域風土や文化を理解することは大変意義深く、民謡や和太鼓の演奏を通して、郷土を愛し表現する楽しさを学ぶ部活動として大きな存在を示しているところです。しかし、部員数の増加に伴って日常の練習量が増加し、現有の和太鼓の革の破れや歌口の陥没が目立つようになりました。そもそも和太鼓は、ケヤキやセンのくり抜き胴と、雌牛の皮といった部材で成り立っていることから、高額な楽器であるため容易に購入したり修理することはできません。破れても欠けても工夫をしながら練習や演奏を行ってきましたが、その使用にも限界を感じ、今回志願することになりました。

今回、文化系部活動支援金により長年の希望であった和太鼓（平胴太鼓）の購入が可能となり、部員らとともに胴造りや胴寸法、皮張り、太鼓色等を検討し、品位のある伸びの優れた和太鼓を設けることができました。太鼓製作には長期間を要するため、仕上がりが 12 月となり今秋の演奏会等、祭事のピークに間に合わせることはできませんでしたが、購入後、毎日のように太鼓に触れては笑顔を見せる部員の姿を見受けることができます。今年度はコンクール県予選において上位入賞をすることができ、東海・北陸ブロックの大会を控えています。この大会に向けて一層の努力をしているところですが、舞台では何より購入させていただいた和太鼓を活かして、重低音を充実させダイナミックな表現ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

現在、和太鼓を軸とした部活動を進めているのは県下においても数えるほどで、本校太鼓部は生徒にとって珍しく関心が高いものがあります。しかし、部活動としてもイメージが掴みにくく、3 年間継続して取り組むには強い精神力が必要となることから活動を断念する生徒もいます。そのようななかでも、部員らは太鼓と真剣に向き合い、人と関わり、自己を見つめながら日々練習に励んでいます。他の演者や観客と一体となって舞台で輝く部員の姿には、不断の練習によって身についた感謝の心と、絶えず挑戦する心が満ち溢れています。この姿を決して見逃すことなく大切にし、自信に満ちた活動が今後も続けられるよう努めていきたいと考えています。

最後になりましたが、改めて伊藤理事長様をはじめ奨学会の皆様に深い感謝を申し上げ、今後とも誠実に、ひたむきに取り組むことを念頭に活動していきます。この度は、本当にありがとうございました。

顧問　安藤耕作

奨学生の声

2013年11月までに提出された学業状況報告の一部です。

長谷川　拓

高崎経済大学経済学部１年
（恵那高校卒）

憧れの舞台、大学駅伝予選会で20kmを完走！“支えられている自分”を実感。

大学の講義は高校までの授業とは全く違います。私は高校の頃から歴史に興味を持っていたので、歴史を例に挙げてみようと思います。高校までの歴史はどの時代に何が起こったのかを暗記していく作業がメインですが、大学は、なぜその出来事が起こったのか、そういった深いところまで学習します。例えば高校なら「1929年世界恐慌が起こりました。以上です。」となります。しかし大学では、「ベンジャミン・ストロングという人物が景気をコントロールしていましたが彼が1928年に亡くなり、彼以外に景気をコントロールできる人間がいなかったため、世界恐慌が起こりました。」という内容を深く教わります。そして、経済学部ながら教養科目ということで、経済以外の様々な学問を学べます。現代社会哲学という講義では、“主権”という今まで何度も聞いたことのある概念をもう一度考え直してみるという経験をしました。日本国憲法の“国民主権”とはそもそもどういった意味なのか。国民主権とはつまり国民が立法に関わることで、国民が立法権を部分的に持っている状態のことを言う。主権とは最も高い権力である立法権のことである。そもそも主権は、封建社会が宗教戦争により破壊されたことで、人々を押さえつける必要があり、そのための絶対的権力として生まれたのだ。このように、それはなぜ起こったのか、ということをどんどん結びつけて深く考えていくのが大学の講義だと思います。大学の講義を受けてみて、高校までの学習で基礎を確立させておくことがいかに大切なのかということに気づいた気がします。このような貴重な体験ができるのも、大学へ送り出してくれた親と、伊藤青少年育成奨学会様のおかげだと思っています。これからも文武両道を目指し、自分を高めていける大学生活を送っていきますので、今後ともよろしくお願い致します。

奨学会からのコメント　駅伝予選会、講義の内容、日々の進歩がうかがわれます。ただ「奨学会」に敬称をつける時は「貴」を頭部分に使う。「貴奨学会」です。「奨学会様」とはいわない。敬語の基本を身に付けて、社会人になろう。

後藤　千穂

愛知県立大学外国語学部
英米学科２年
（多治見北高校卒）

邦人開拓者の活動を通して、物ではなく心の豊かさを学んだカンボジアスタディーツアー

夏の長期休暇を利用して、カンボジアスタディーツアーに参加しました。小学生のころから、発展途上国でボランティア活動をするのが夢でした。しかし、海外に行くのが初めてということで不安もありましたので、まずは、直接現状を見たいと思い、このツアーを選びました。カンボジアというと、未だ無数の地雷が埋まっていて、そのような土地に多くの貧困層の人々が暮らしている。確かにそのような事実もありましたが、それ以上に私が衝撃を受けたのは、カンボジアの荒地を開拓し、数百人規模の村を作り上げた日本人がいるということです。実際に村を訪ね、開拓者である森本喜久男さんのお話を聞きました。カンボジアの伝統工芸品の絹織物に惚れ込んだ森本さんは、内戦によってその技術の後継者が消えつつあるという状況を知り、国内全土を探しまわり、そして集めてこの村作りを始めたそうです。村では女性が働きやすいように、子供を横に置いて面倒を見ながら母親たちが作業できるようになっていたり、お互いの顔を見ながら作業出来る空間になっていたりしました。森本さんは、「物づくりは心である。」と何度もくり返しおっしゃっていましたが、私は人々が関わり合えるこのような空間から作り出される絹織物が、まさにその言葉の象徴だと感じました。日本のように道具が揃っているわけでもなく、電気も限られた時間にしか使えない生活でしたが、物ではなく心の「豊かさ」を大いに実感できました。次は日本語・英語指導のボランティアとして訪れたいと思っています。

奨学会からのコメント　森本喜久男氏のことはTVで拝見。彼の凄さは現地で必要に迫られている事象を解決していった結果が伝統技術保存にもなり、数百人の暮らしが立つようになったということ。同様にあなたも、貧困を解決するシステムを考え、結果が語学の修得になったというような踏込がほしい。

篠原　光毅

同志社大学理工学部
エネルギー機械工学科２年
（藤枝明誠高校卒）

海外学生の意識の高さを体感した短期留学。技術者として働くよろこびを学んだ企業見学。

アメリカ、フロリダへの短期留学を終えて、現地の大学生と実際に話したり行動をとる事で、日本という国を、日本人という人種から外から見る事が出来ました。アメリカの学生は自分の進みたい道を自分で決め、早くからそれに向かって勉強しているという事を見て、日本との違いを感じました。私も“大学に入るため”“授業で好成績をとるため”ではなく、自分のやりたい事を実現するために行動することにしました。

私の学科は原子力などの危険なエネルギー源の代わりになるような環境に優しいエネルギー装置を開発することを目的とした勉強をしています。なので夏休みを利用し、実際にシンフォニアテクノロジーに企業見学をさせてもらってきました。この会社では最新の風力発電の開発をされていました。一般の風車の形ではなく、より小型で効率の良さを求めた新しい形状の風力発電装置でした。人々の暮らしがより便利で安全に住みやすくなるように新しい物を追及していく事は必ず成功するという保証はなく、失敗、改善のくり返しばかりらしいです。しかし社会に商品が出て人々の役に立った時の喜びははかりしれないと聞きました。自分も人のためになる仕事が出来るように一歩一歩学んでいきたいです。秋学期には、水力発電装置の設計、組立てを実際にすることが出来るので技術者の第一歩だと思いがんばっていきたいです。

奨学会からのコメント　脱原発に舵を切ったドイツ。風力発電などの開発費・買い取り価格費が転嫁され、高い電気料金になった。昔の水車レベルの水力装置で数十世帯単位での発電を考えると、岐阜県は発電最適地らしい。一基で百万人を養うとなると開発時間もリスクも増大。小回りが利く方が良い気が。

今井　優希

名古屋大学農学部
応用生命科学科２年
（恵那高校卒）

興味深まる微生物研究と遺伝子組換え分野。さらに見識を深め、研究分野選択へ。

前期に、私が以前から興味を持っていた微生物学の講義を受けました。微生物学とはいっても、微生物の種類や生態を学ぶことよりも多くの生物に共通する代謝経路や呼吸の回路に重点を置いた内容で、かなり難しい印象を受けました。この講義の導入部分で知ったのですが、微生物は他の高等な生物の代謝などを理解し、研究するために使われることも多いそうです。微生物がそれ単体で研究されているのではないということを知り、また違った視点で微生物を見ることができた上に、微生物の研究における重要性を再確認することができました。名古屋大学の生命農学研究科で行われている微生物研究は、いわゆる基礎研究が多く、私がボンヤリとイメージしていた応用的なもの、医薬や食にかかわるものとは違うと聞き、研究室選択に少し迷っています。微生物以外で興味がある分野としては、植物などの遺伝子組み換えが挙げられます。10月から始まった『生命と技術の倫理』という講義では遺伝子組み換えの定義や普及に関する話を聞くことがあり、とても面白く感じました。世論が遺伝子組み換えに対して負のイメージを持ち、メディアも悪い面ばかりを取り上げてしまう現状において、遺伝子組み換え作物は安全だと主張してもなかなか広まらないでしょう。

それでも、誤解を解き、良い面も悪い面も含めた真実を知らせ、正しく遺伝子組み換え技術を利用・開発していけるのは農学に携わる者だけだと思います。険しい道ではありますが、そのようなことに携わるのはやりがいがありそうだと思います。現在心を惹かれているのは微生物学・遺伝子組み換え技術の２つですが、今後講義で学べる分野が広がるにつれて、また変化する可能性もあります。ひとまず今は心惹かれる２分野についてもう少し詳しく知りたいと感じます。

奨学会からのコメント　遺伝子組み換えの負のイメージは、メディアも悪いが科学者の発言力の無さに失望している。自然農法至上主義者は遺伝子組み換えの作為性を攻撃し、食糧増産という営利的答えをメディアは引き出す。自然農法の名のもとの単一植物栽培の不自然さを、彼らにまず理解させなければ。

シリーズ　第18回
この本をあなたにも薦めたい

公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会
前事務局長　**町田隆明**

言志四録
佐藤一斎（著）
出版社：PHP 研究所

言志四録

佐藤一斎（著）

少にして学べば、則ち壮にして為すこと有り。
壮にして学べば、則ち老いて衰えず。
老いて学べば、則ち死して朽ちず。

この語録は、恵那市岩村町出身の江戸後期の儒学者佐藤一斎（美濃岩村藩の家老の次男として江戸藩邸で生まれる）が著した書物として有名な『言志四録』の中の『言志晩録』第 60 条の条文で、人間の一生涯にわたる学び続けることの大切さを説いたものです。また、同様の意味を述べているのが『言志耋録』第 328 条である。

“人間の一生は、20 歳から 30 歳まではちょうど、立ち昇る太陽のようなものだ。四十歳から六十歳までは、まるで日中の太陽のようで働き盛りの年代である。立派な徳を立て、大業を成すのはこの時代である。70 歳から 80 歳までは心身ともに衰えて、仕事は思うようにはかどらない。だから、元気旺盛な若者は、勉強すべき時に大いに努力して、大きな仕事をなし遂げるがよい。年老いてから「日暮れて道遠し」と嘆くことのないように。”

この本は平易に現代語に抄訳されており、人間の生き方に関する問題意識で貫かれておりお薦めしたい。

なお、佐藤一斎ゆかりの地である恵那市岩村町では歴史資料館の広場の一角に顕彰碑が建てられており、平成 17 年からは NPO 法人岩村一斎塾研究会が設立され佐藤一斎に関する講演会や『言志四録』講読会が定期的に開催されている。

平成26年度　スポーツ・文化系部活動振興支援事業並びに地域振興事業支援金 募集中！

締切日（消印有効）
平成26年5月15日

詳細につきましては、下記財団ホームページをご覧いただくか、事務局へお問い合わせ下さい。

スポーツ・文化系部活動振興支援事業

■事業の概要

高等学校運動部及び文化系部活動のなかで、大きな目標を持ち、日頃から積極的な活動を実施している団体や、十分な活動時間が持てないなか活発に活動している特別支援学校等に対して、支援することを目的としております。

■審査基準

①支援金は部活動向上のための商品、什器・備品等の購入のための支援金であり、遠征・宿泊費等は支援できませんのでご注意下さい。

②活動内容が、部活動等を通じて豊かな人間性を確立するという目的に沿っているか、といった観点から審査いたします。必ずしも、よい成績を収めるためでなくてもかまいません。もちろん、独自の取り組みの結果として好成績を収めている場合は評価いたしますが、過去の成績だけで選考することはありません。

スポーツイベント

■事業の概要

当事業は、岐阜県内で開催される小・中・高生を対象としたイベントで、青少年の健全育成に寄与することを目的としております。
活動内容が、スポーツを通じて、仲間とともに力を合わせて心・技・体の鍛錬を重ねる活動であるかどうか、といった観点から審査いたします。
必ずしもよい成績を収めるためでなくてもかまいません。
予算の許す範囲で助成いたします。

■審査基準

助成対象は、岐阜県内で今事業年度（4 月～翌年 3 月）に行なわれるイベントで、営利目的ではないことを条件としております。
助成申請があったイベントに対し助成をする応募型の助成で、青少年の健全育成または地域の活性化に資するかといった視点に立ち選考し、選考の結果、当法人が必要と認めた額を助成いたします。
ただし、下記のものは対象外となります。
（1）個人的な事業
（2）毎年継続的に行なわれる恒例的な事業の複数回の助成（一回限りならば助成可能）
（3）目的が明確でないもの
（4）その他、当財団がふさわしくないと判断したもの

地域振興事業

■事業の概要

当事業は、地域の各種団体等が取り組む様々な地域振興事業に資金の助成を行なうことで、人材の育成または地域の活性化に資することを目的としております。

■審査基準

助成対象は、岐阜県内で今事業年度（4 月～翌年 3 月）に行なわれる文化・教育・国際交流等に関する事業活動で、営利目的ではないことを条件としております。
助成申請があった事業活動に対し助成をする応募型の助成で、人材育成または地域の活性化に資するかといった視点に立ち選考し、選考の結果、当法人が必要と認めた額を助成いたします。
ただし、下記のものは対象外となります。
（1）個人的な事業
（2）毎年継続的に行なわれる恒例的な事業の複数回の助成（一回限りならば助成可能）
（3）目的が明確でないもの
（4）その他、当財団がふさわしくないと判断したもの

■選考の流れ（全事業共通）

～平成 26 年 5 月	奨学会へ申請書を提出※
平成 26 年 6 月	審　査
平成 26 年 6 月	結果を通知
平成 26 年 7 月	贈呈式

※高等学校の部活動は学校長をを通じて、奨学会へ申請書を提出してください。

公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会事務局
〒507-0062　岐阜県多治見市大針町 661-1
TEL 0572-20-0800（直）
FAX 0572-29-1168
E-mail webmaster@ito-zaidan.or.jp
URL http://www.ito-zaidan.or.jp

発行　公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会
印刷　株式会社コームラ